

西舞鶴高生が文科大臣賞

西舞鶴高の理数探究科の生徒有志でつくる冠島調査グループが、本年度の「第58回全国野生生物保護活動発表大会」で文部科学大臣賞を受賞した。グループは冠島で専門家が行う府の鳥・オオミズナギドリの調査に20年近く参加しており、近年はAIを活用したデータ分析や普及啓発にも力を入れていることが評価された。



周囲するオオミズナギドリの個体数を計測する西舞鶴高の生徒たち(2024年5月24日、舞鶴市・冠島) 同高提供



文部科学大臣賞の賞状などを手にする(左から)野田さん、村上さん、村尾さん(舞鶴市引士・西舞鶴高)

「調査」を手伝う。「鳥まわり」と呼ばれる海から巣に帰る前に島を周回する習性に着目し、グループが主体となって、通過する個体数を計測する調査も行っている。

21年には、鳥や島の魅力を伝える動画を作成し、ネットで公開した。地元の小中学生向けイベントでも、調査を疑似的に体験する仕組みを考えるなど工夫を凝らす。本年度は、一部生徒がAIを使った個体数計測システムの作成にも取り組む。

発表大会は、次世代の自然保護活動を行う人材育成を目的に環境省と日本鳥類保護連盟が共催。本年度は小中高の計24件の応募があり、受賞9校が11月27日、環境省(東京)での授賞式・発表会に臨んだ。西舞鶴高が

足環装着や個体数計測

地元イベントPRも工夫

冠島は舞鶴市沖の無人島で、オオミズナギドリの集団繁殖地として国の天然記念物に指定されている。冠島調査研究会が、毎年春と夏に定期調査を実施している。

西舞鶴高は、理数探究科ができた2006年から本格的に参加。1、2年生10人弱が2、3泊のテント生活をしながら、鳥を捕獲して足環を装着する「標

冠島オオミズナギドリ調査参加

スイーツで舞鶴観光を

西舞鶴高(舞鶴市引士)の生徒が23日、西舞鶴の市街地2カ所で舞鶴茶の「抹茶スイーツ」販売に取り組んだ。総合的な探究の時間に、観光客を増やす手だてを考えた。空き家の活用をテーマにした班はソフトクリーム、特産品活用を考えた班はクッキーを作り、いずれも多くの客が味わった。

西舞鶴高生が販売

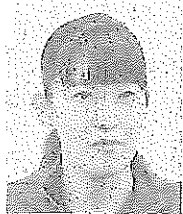
普通科1年の生徒約160人が4人ほどずつの班に分かれ、舞鶴の課題解決策を考えた。このうち2グループがスイーツ販売を行った。

空き家活用の班は、

平野屋商店街の町家を改修して2022年に開店したカフェ「machiya」と連携した。人気の豆腐ソフトを基に特産品との掛け合わせを検討。材料の配合を変えて試作を重ねた。上西胡桃さん(16)は「高校生が空き家に手を入れるのは難しいが、活用する人とコラボしてなら貢献できるかな」と考えた。もったいないものを有効活用して魅力ある街にしたい」と話した。

特産品活用の班は、クッキーに抹茶パウダーをたっぷり混ぜ込み、かわいいアイシングを施した。西市民プラザの「西」7775バザールで販売した。

空き家・特産品活用で探究



井上愛里沙

バレー井上引退

舞鶴出身 パリ五輪代表

バレーボール女子で昨夏のパリ五輪日本代表を務めた舞鶴市出身のアウトサイドヒッター井上愛里沙(29)は西舞鶴高1筑波大出が12日、所属するSVリーグの姫路を通じて、今季限りで現役を引退すると発表した。井上は身長178cmのアタッカーで、高校3年の時に2013年世界ジュニア選手権で

日本の準優勝に貢献。大学1年の14年には初めて日本代表に選出された。16年リオデジャネイロ五輪、久光(現SAGA久光)に入団後の21年東京五輪で代表入りを逃して一時は引退を考えたが、当時の真鍋政義代表監督に引き留められて現役を続行。仏1部サン・ラファエルを経て23年から姫路でプレーし、念願のパリ五輪出場を果たした。1次リーグの全3試合に出場して計12得点を挙げた。姫路のエースとして

井上は「自身の成長を感じさせてくれるバレーボールというスポーツに出会えて幸せな競技人生でした」とのコメントを出した。

(井上広俊)

NEC川崎がACL辞退バレーボールのSVリーグは12日、NEC川崎が4月にフィリピンで行われる女子クラブチームのアジア・チャンピオンズリーグ(ACL)の出場を辞退したと発表した。大同生命SVリーグでプレーオフ進出を決めたため、日程が重なり



悠仁さま、シベリア抑留の展示見学

舞鶴引揚記念館を訪問

舞鶴港を再現したジオラマの前で、引き揚げの状況について学生語り部から説明を受ける悠仁さま(右から2人目) 12月午後1時27分、舞鶴市平・舞鶴引揚記念館、代表撮影

アイリスオーヤマ 飲料水工場建設へ

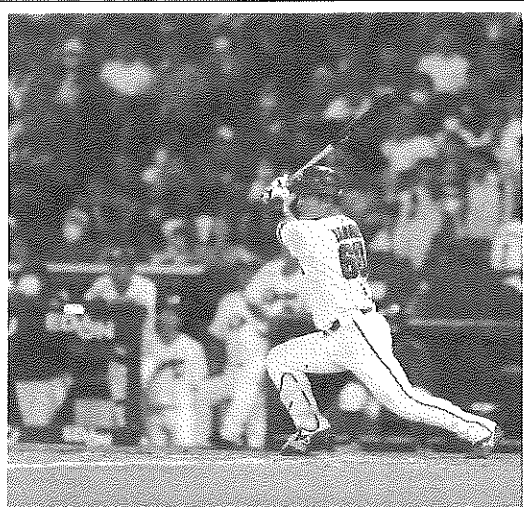


◆アイリスオーヤマ(仙台市)が舞鶴市高野由里の工場用地に飲料水の工場を建設すると発表した。工場は2026年半ばの完成、操業開始を計画する。平成の名水百選にも選ばれた地下水「真名井の清水」を使用したミネラルウォーターや炭酸水を製造する。同社にとって近畿では初の飲料水工場。

同社は、舞鶴市と環境保全や地域振興を取り決めた立地協定を締結。復興支援や防災の取り組みを踏まえ、市内にある海上自衛隊と海上保安庁の機関と物資提供を定めた防災協

定も結んだ。当初の投資額を140億円、新規雇用を約80人とした上で、将来的には投資額計300億円、新規雇用計200人を目指す考えを明らかにした。

◁ 4/20



初本塁打がサヨナラの一打

中舞鶴小出身のプロ野球選手・広島カープ・田村選手(21) 写真・広島東洋

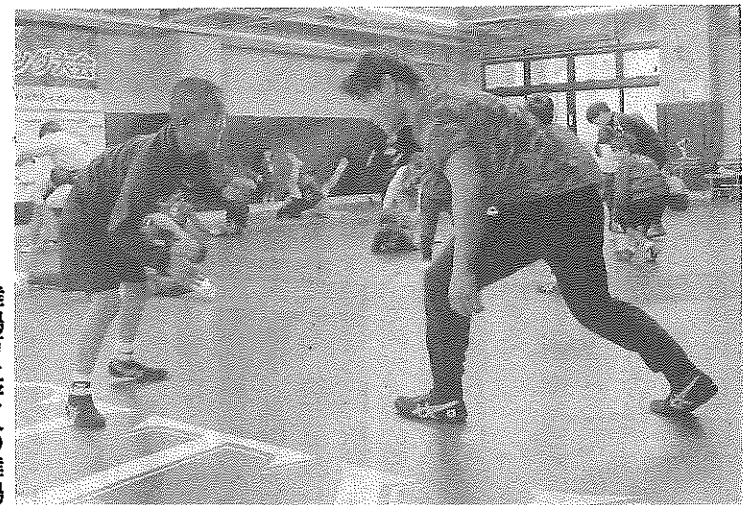
洋カープ提供が、開幕から好調を維持している。広島市の本拠地マツダスタジアムで開かれたDeNA戦では、球界を代表する守護神・山崎康晃投手からプロ初本塁打。延長11回裏に代打で打席に立った田村選手は、思い切りよく初球を強振。劇的な幕切れとなるサヨナラ本塁打となった。

ヒーローインタビューで田村選手は、「本望に期待していたけど、なかなかホームランが打てなかったので、お待たせしました」と喜びを爆発させた。昨年はシーズン前に日本代表にも選出。飛躍が期待されたシーズンだったが、チャンスをつかむことが出来ず低調な成績に終わった。

そんな中迎えたプロ入り4年目の今シーズン。6日には4番で起用されるなど、首脳陣の期待は大きい。まだ始まったばかりとは言え現在の打率は4割をマーク。ファンからも活躍を熱望されて久しい大器が、いよいよ開花のシーズンを迎えるか。その動向から目が離せそうにない。

レスリング 子ら熱戦

舞鶴で大会 高谷選手の指導も



子どもたちと交流する高谷大地選手(右) 舞鶴市上安久・舞鶴文化公園体育館

舞鶴市上安久の舞鶴文化公園体育館で19日、舞鶴レスリング大会が開かれ、子どもたちが熱戦を繰り広げた。パリ五輪銀メダリストの高谷大地選手(30)による講話や特別指導もあり、子どもたちは士気をさらに高めた。

同大会は舞鶴市レスリング協会の主催で、昨年に初めて開催され、第2回。舞鶴レスリングクラブや日星高レス

亀井さん(東舞鶴高) ボクシング全国V

昨年9月ボクシングの全国大会で優勝して11月にプロテストに合格した東舞鶴高3年の亀井大和さん(18) 舞鶴市野原一が16日、鴨田秋津市長を表敬訪問し、プロとして活動する今後の抱負を語った。

亀井さんは北陸イシマルボクシングジム(福井県敦賀市)に所属。高校入学後にボクシングを始め、自宅から遠方のジムに通って競技を続けている。

昨年9月に東京都で開催されたジュニア・チャンピオンズ・

リーグ全国大会のU-18フライ級に出場し、優勝を果たした。高校卒業後は敦賀市に引っ越してボクシング中心の生活を送る予定という。

亀井さんは全国大会について「優勝できてうれしかったが、(試合運びが)思うようにいかなかった」と振り返った。今後の目標について聞かれると、「まずは今年の新人王戦で結果を残したい。夢は世界チャンピオン」と力強く答えた。

(菅井渉太)

舞鶴市役所訪問「プロ新人王戦で結果を」



鴨田市長手前、大会の結果や今後の抱負を語る 亀井さん(中央) 舞鶴市役所

リング部で活動する幼稚園児から高校生までの34人が出場した。子どもたちは、学年や体格別に9グループに分かれて対戦。タックルを果敢に仕掛けた、粘り強く寝技を決めたりと、普段から一

緒に練習する相手と真剣に競い合った。高谷選手は講話で「何をしたいのか、何を指すのかを自分で考えることが大切。そうでないと壁にぶつかったときに自分で越えられない」と語りかけ、レスリング未経験の子どもも含め、参加者が耳を傾けた。近畿大付属豊岡中1年高橋滉さん(13)は「自分の思いに従って、チャレンジを続けていきたい」と話した。

(菅井渉太)

府北部にヘリポート整備へ

1/28

孤立地域からの避難訓練で海上自衛隊ヘリに乗り込む住民(昨年12月、宮津市)



府内には丹後半島をはじめ、災害時に道路が寸断され、孤立する可能性のある集落が約400カ所ある。このうち、舞鶴市は大浦半島に位置する田井地区(周辺地区を含む対象住民約400人)に、綾部市は奥上林地区(約380人)にそれぞれヘリポートを整備する。いずれも過去に孤立事例がある。府が国の交付金を活用して全額を補助し、各市が新

災害時、孤立恐れ地域など3カ所

昨年の能登半島地震で道路の寸断により孤立集落が多数発生したことを受け、京都府と舞鶴市、綾部市は新年度以降、孤立可能性のある地域など3カ所にヘリポートを初めて整備する。災害時の大型ヘリによる住民の救助や物資輸送に役立てる。府と府警本部はドローンや発電機など資機材確保も進め、孤立対策を強化する。

府・舞鶴市・綾部市、新年度に着手 原発事故時も活用想定

年度に設計、整備し、2026年度に供用開始する。また、府は新年度、舞鶴市の舞鶴港第3埠頭に大型ヘリ8台分のヘリポートを整備する。第3埠頭には崖止めなどの段差があるため、安全に離着陸できるようにし、給油設備も配置する。他府県を含む物資支援の拠点にするほか、田井地区と奥上林地区の住民のピストン輸送先としても活用する。

3カ所はいずれも関西電力高浜原発(福井県高浜町)30キロ圏内の緊急防護措置区域(UPZ)であり、原発事故発生時の避難にヘリを活用することも想定している。

このほか、災害時に初動対応を行う消防団や自主防災会などの「ふるさとレスキュー」(28地域)を対象に、チェンソーや小型発電機といった資機材購入費や講習経費を補助する制度を創設する。府警本部は長時間飛行可能な有線ドローンと被災地の映像を伝送するアンテナを新たに配備し、被害の状況や必要な物資の把握に役立てる。(小野俊介)

西舞鶴駅が装い新たに

4/0

20周年の京都交通は待合所移転

新年度が始まった1日、西舞鶴駅西口駅前広場で整備を進められていた駅前ロータリーが完成し、同日より供用を開始(写真)。20年前のこの日、始まりの時刻を刻んだ京都交通はバスの待合所が西駅交流センター内に移転となり、新たなスタートを切った。

玄関口の整備進む

新たな門出で街に勢いを



西舞鶴駅は1904(明治37)年に舞鶴駅として開業。舞鶴市の市域拡大に伴って、1944(昭和19)年に西舞鶴駅に改称した。1999年9月25日に橋上駅舎化され現在の形となり、同年10月2日には舞鶴線が悲願の電化開業を果たした。

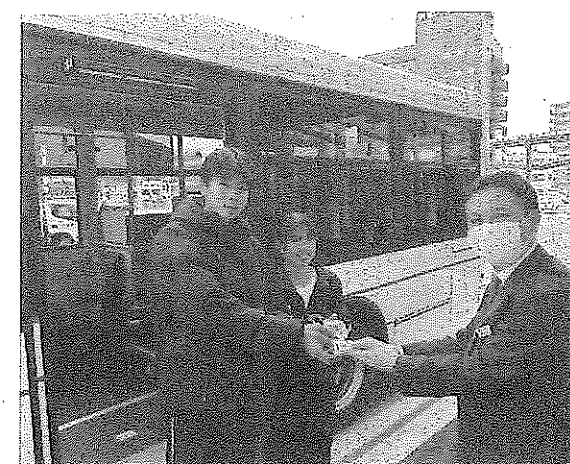
鉄道駅を中心とした公共交通が変遷していく中、日本交通(大阪)が子会社として京都交通を設立。会社更生法により更生手続中のバス事業者・京都交通(亀岡市)から舞鶴

支社(京都府北部地域の営業を譲り受けることになった。以来20年、同社は市民の足として親しまれながら、使用済天ぷら油を精製したバイオディーゼル燃料を使用

したバスの試験運行の取り組みや、最新式のハイブリッドバスの導入、府北部地域を発信するラッピングバスの導入など先進的な取り組みにも着手。当地の公共交通の要として確かな足跡を残してきた。そうした時の流れを経て迎えた節目のこの日、同社は利用者記念品として玩具「オリジナルチョコQ」を呈した。

部活動帰りにバスを利用した坪倉増生さん(西舞鶴高3年)と迫田万尋さん(同2年)は、記念品を「良い時に乗りました」と笑顔で受け取り、「バスは電車より本数が多くて利用しやすい。駅前も綺麗になってうれしいです」と喜んだ。

同社で運転手を務める鈴木圭一さん(50)



乗客に記念品を手渡す鈴木さん(右)

は「シェルター(上屋)を経て、新たに歩んでも出来て、バスの乗降も便利になります。今日は初めてで戸惑いもありますが、新鮮な気持ちです。20年の節目は、記念品を「良い時に乗りました」と笑顔で受け取り、「バスは電車より本数が多くて利用しやすい。駅前も綺麗になってうれしいです」と喜んだ。

229人訓練決意新た

海自舞鶴教育隊で入隊式

海上自衛隊舞鶴教育隊は8日、入隊式を舞鶴市泉源寺の同隊体育館で開いた。新入隊員229人が訓練への決意を新たに誓った。



入隊式で宣誓する新入隊員たち(舞鶴市泉源寺・海自舞鶴教育隊)

舞鶴をネットショップのまちに。人口減で市場が縮小する中でも小売業を盛り上げようと、舞鶴商工会議所がインターネットを介したEC（電子商取引）の拡大に取り組んでいる。EC講座で先行企業が「舞鶴のためなら」と自ら築いたノウハウを伝えるなど、地元企業が協力してレベルアップを図っている。（菅井渉太）

人口減で市場縮小 商議所がEC拡大へ講座



ウッディーハウスの倉庫で、受講者に対して同社の在庫管理について説明する担当者（舞鶴市浜・ウッディーハウス）



舞鶴商工会議所の商業部会長としてECの拡大を主導するキクツルの久下社長（舞鶴市魚屋・キクツル配送センター）

在庫管理や顧客対応 先行企業がノウハウ伝え 地方独自の商品や売り方模索

22年に商業部会長のキクツル久下幸典社長が中心となつて開いたEC勉強会に、卒業式向けレンタルはかまを06年から先駆的に手がけ、08年には全国の優れたEC事業を表彰する「ベストECショップ大賞」を受賞した。久下社長は「自らの経験を生かし、舞鶴をネットに移るまちにしたいと企画した」と振り返る。ただ、ECで地方から全国に進出できることは、裏を返せば、海外や大都市の企業が地方の顧客に手を伸ばせることもある。志摩代表は「システムをまねれば成功するわけではない」、久下社長も「独自の商品や売り方が必要」と注意を促す。

久下社長は部会長として、「今後は課題に合わせた勉強会も開きたい。そうすることで、互いに高め合つてECで成長していけるのではないかと意欲を示した。

舞鶴をネットショップのまちに

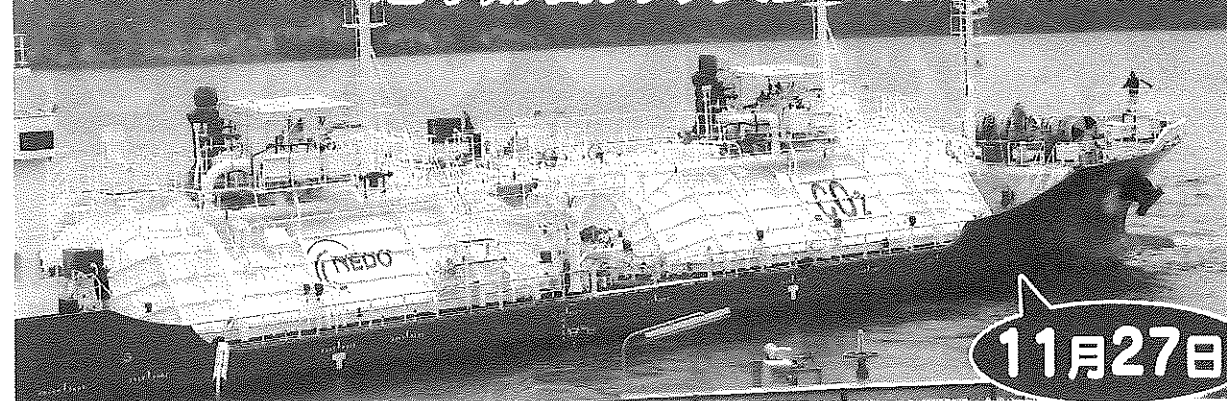
3月上旬、衣料品小売のウッディーハウス本社（舞鶴市浜）に、衣料品や食品、ペット用品など多様な商品を販売する市内の事業者から6人が集まった。市が主催し商議所の商業部会が運営するEC講座の最終日。全般的な考え方や商品ページ作成・写真撮影がテーマの第1、2回に続き、在庫管理や顧客対応について同社の担当者が説明した。ウッディーハウスは1999年に市内商業施設内の倉庫管理システムを導入したが、もっと早くてもよかった」と同社の経験などを受注印刷するフルグラを伝えた。SNSの活用や顧客対応では信頼関係の構築が重要とし、「顔の見えるネットショップでも、画面の向こうに人がいることを感じさせることを意識している」と話した。

同社の志摩幹一郎代表（商業部会副会長）は取材に「地方都市こそデジタル活用を力を入れるべき」と強調。「舞鶴の企業には一緒に頑張つてほしいという思いがあり、ノウハウをオープンにしたと語った。この取り組みの源流は、



液化CO₂輸送船 舞鶴初出航

地下貯留向け実証で北海道と往復



11月27日

◆発電所や工場の排ガスから二酸化炭素（CO₂）を回収して地下深くに埋める「CCS」の実用化に向け、液化したCO₂を船舶で長距離輸送する実証試験が本格的に始まった。関西電力舞鶴発電所（舞鶴市）内の岸壁から、受け入れ施設のある北海道苫小牧市へ専用船の第1便が出航。効率や安全性の高い大量輸送技術の確立を目指す。

国は2050年までのCO₂排出量実質ゼロを目指す。低コストで大量に運べる船舶輸送システムの構築を図る。舞鶴発電所内にCO₂の液化設備や貯蔵タンクを建設。試験では、専用船のタンクに液化CO₂を詰め、苫小牧と往復。温度や圧力を変えて、効率の良い「低温・低圧」輸送に最適な条件を探る。



10月16日

◆スポーツの日の10月14日、舞鶴市内で「舞鶴赤れんがハーフマラ

ソン2024」が開かれた。秋晴れに恵まれ、全国から訪れたランナーが海岸沿いの自衛隊基地内や赤れんが倉庫そばなど、舞鶴ならではのコースを駆け抜けた。

市と京都陸上競技協会が主催し、12回目。過去最多の計2750人（ハーフの部2378人、2*の部372人）が出場した。

ハーフの部のランナーは、午前9時半に舞鶴東体育館前をスタートし、ヘリコプターが並ぶ航空基地や護衛艦が停泊する係留所といった海上自衛隊の施設内を通過した。市民や海自隊員の声援、地元団体による和太鼓の応援演奏を受け、